

ひとりごとになりにくい文末表現

- 伝聞(「～そうだ」「～らしい」「～という」)
- 仁田義雄(1992)「判断から発話・伝達へー伝聞・婉曲の表現を中心に」『日本語教育』77
- 「第3者からの情報を聞き手に取り次ぐ」→
「伝聞の対話性」
- #彼が結婚するそうだと思う。

ひとりごとになりやすい文末表現

- 森山
- 「ぞ」「わ」「さ」「なあ」
- 彼はあの車を買うそうだ。(ひとりごと不可能)
- 彼はあの車を買うそうだ わ/ぞ/さ。
- 「ぞ」「わ」:すでに成立している認識的な判断に対して、その場で改めて強く焦点化することを表す。(森山)
- 「わ」:自分の持続的な感情を強く意識する。
- 「さ」:意識や文脈のなかで問題になってきたことについて、暫定的な結論を出す。

ひとりごとになりやすい文末表現

- 「なあ」: 丁寧語の発動を回避することが出来る。
- 難しいなあ
- あー、むつかしい。(試験の過去問を見て)
- 太 難 了!
Tai Nan le
しすぎる 難しい 助詞

ひとりごとはどのようなようにして発生する
のか。

- 子供や老人は頻繁にひとりごとを言う傾向がある。

月本洋

- (2008)『日本人の脳に主語はいらない』 講談社選書メチエ
- 思考とは自分との対話である。
- 対話が発達して思考が出来るようになる。

更なる考察

- 対話→ひとりごとでの思考→発声を抑える→黙考
- 仮想的身体運動としての想像(月本)
- 黙考が出来ないときにひとりごとが発生する。
- ひとりごとの条件は発声を抑えることができない状況を表している。